

大阪市民教育研究所開所記念講演

「異文化を知る、自分を知る」

2012年10月6日

NPO 法人クロスカルチャーメディア専務理事

Raja Ratna Sthapit

1990年に初めて来日して経験した日本での貴重な異文化体験をもとに「異文化を知る、自分を知る」をコンセプトに異文化理解の活動をしています。また、『カトマンドゥ通信』（“日本語で伝えるネパール”情報誌・現在94号編集中）を1994年に創刊したことも、日本でさまざまな「違い」に出会い、「知っているつもりで知らない」故郷を再発見したこと、そして「違いのおもしろさ・素晴らしさ」を伝えたいと思ったことがきっかけでした。そして『カトマンドゥ通信』を18年間どんな時でも続けてきたことで日本語での初めての著書『素顔のカトマンドゥー日本が教えてくれた故郷』（2011年、弦書房）にもつながりました。

しかし、日本での異文化体験は、決して楽しいことばかりではなく、「違い」を受け容れることができず悩んだ葛藤の日々がありました。その経験を通じて「違い・異文化」に向き合ったことで「異文化を知る、自分を知る」そして「違いはおもしろい！」というかけがえのないことを学び、私自身の人生のミッションが教えられたことに今は感謝しています。

現在、日本で取り組んでいる異文化理解の活動では、学校や地域で「知る、楽しむ、伝える」を大切にしながら「違いはおもしろい！」を伝えています。これからのグローバル時代を生きる私たち、そして特に子どもたちが「違いはおもしろい！」と心から思うことはとても大切だと思います。素直に受けとめる力のある子どもたちが、「違い」に向き合ってたくさんの「なるほど！」に出会うことで、さらに好奇心をもって多くのことを学び、将来の夢や希望を抱くことにつながると信じています。グローバル時代に重要な「互いの尊重」のためには、まずは自分自身のことをよく知ることが大切で、「知っているつもりで知らない」ことがあることに気づきます。それを教えてくれるひとつのことは「違い・異文化」です。異文化に出会い、自らを再発見して、より深く知ること、相手のことがよく見えてきます。そこから自然と「互いの尊重」につながるのだと思います。

日本での異文化体験を通じて、私自身「違いはおもしろい！」と心から思うようになったことで世界のどこにいても「違い」から学び、世界のどこにしようとも、その場で自らができることを精一杯することができるのだと感じています。これは、日本での異文化体験から学んだ宝物です。これからも、子どもたちが笑顔で「違いはおもしろい！」と心から言える日が来ることを願って日本での活動を頑張っていきたいと思っています。